



VideoStudio

導入ガイド

はじめに

このガイドを読み進めていくにあたり、各ページの右の列にはメインのコンテンツ、左の列には次のカテゴリの情報を記載しています。



定義 — イタリック体の用語または概念を説明します。



ヒント — ショートカット、バリエーション、利点など、役立つ詳細を表示します。



注 — 指定したトピックまたはタスクに関する追加の詳細を表示します。



警告 — 指定されたトピックまたはタスクに関する重要な詳細を表示します。

左の列には、メモを取るためのスペースもあります。

このガイドは、Corel® VideoStudio® Business & Education をネットワークにできるだけ迅速かつ簡単に導入できるようにすることを目的としています。

内容

ステージ 1: 導入の準備	3
ステージ 2: サーバー イメージの作成	5
ステージ 3: ソフトウェアのインストール	7
ステージ 4: ソフトウェアの保守	15

参考資料

ソフトウェアの導入が初めての方や、Corel ソフトウェア製品の導入に関するより基本的な情報が必要な場合は、『Corel Beginner's Guide to Network Deployment』を参照してください。このガイドのコピーは、Corel サポート サービスの担当者にご請求ください。

詳細については、以下の Web リソースを参照してください。

Web リソース	説明
Corel の Web サイト: www.corel.com	Corel Corporation とそのソフトウェア製品のポートフォリオに関する情報
Corel サポート サービスの Web サイト: www.corel.com/support	製品の機能、仕様、可用性、サービス、および技術サポートに関する情報
Corel ナレッジベース: www.corel.com/kb	Corel サポート サービス チームが執筆した記事の検索可能なリポジトリ

ソフトウェアのインストールに使用される Microsoft Windows Installer (MSI) テクノロジーのヘルプについては、Microsoft の Web サイトを参照してください

ステージ 1: 導入の準備



このガイドで使用する「ネットワーク」という用語は、情報を交換する目的で相互に接続されている2台以上のコンピューターを意味します。

ソフトウェアをネットワークにできるだけスムーズに導入するには、次の操作を行って準備します。

- ソフトウェアのシステム要件を確認します。
- サーバーを準備します。
- ワークステーションを準備します。

詳細については、以下を参照してください。



ワークステーションは平均的なユーザーが作業するコンピューターであり、サーバーはネットワークの共有リソースを管理するコンピューターです。

ソフトウェア要件の確認

まず、サーバーとワークステーションがソフトウェアの要件を満たしていることを確認してください。以下を参照してください。

- ソフトウェアの Readme ファイル (利用可能な場合)
- Corel の Web サイトの製品情報ページ (www.corel.com)
- 本ソフトウェアに関するその他の特別な指示

サーバーの準備

- サーバーがソフトウェアの最小システム要件を満たしていること、およびインストールに十分な空きディスク容量があることを確認します。
- サーバーのオペレーティングシステムが最新のサービスパックとセキュリティパッチで更新されていることを確認します。
- サーバー上にソフトウェアイメージを作成するための適切な権限があることを確認します。管理しているドメインのローカル管理者または管理者であり、サーバーの場所に対する読み取り/書き込みアクセス権を持っている必要があります。

ワークステーションの準備

- ワークステーションがソフトウェアの最小システム要件を満たしていること、およびインストールに十分な空きディスク容量があることを確認します。
- ワークステーションのオペレーティングシステムが最新のサービスパックとセキュリティパッチで更新されていることを確認します。



ワークステーション ユーザーのアクセス権をより簡単に管理するには、グループ ポリシー オブジェクト (GPO、または「システム ポリシー」) を使用できます。7ページの「グループポリシーオブジェクトを使用した権限の管理」を参照してください。

- サーバーイメージからソフトウェアをインストールするユーザーに、適切な権限があることを確認してください。ソフトウェアをワークステーションにインストールするには、管理しているドメインのローカル管理者または管理者であり、サーバーの場所に対する読み取りアクセス権を持っている必要があります。

ステージ 2: サーバー イメージの作成



サーバーイメージは、“管理者イメージ”または単に“イメージ”とも呼ばれ、インストールディスク上の一連の圧縮ファイルから作成された、サーバー上の展開されたアプリケーションファイルのセットです。



コマンドラインは、必要な設定を指定できるテキストコマンドです。



ISO ファイルをマウントするには、仮想ドライブを作成するサードパーティ製ソフトウェアが必要になる場合があります。または、ISO ファイルを CD / DVD に書き込み、ディスクからファイルにアクセスすることもできます。



最適な結果を得るには、ネットワークの場所をコピーして貼り付けるのではなく、入力または参照します。

展開の準備ができれば、ソフトウェアのサーバーイメージを作成し、そこからソフトウェアをワークステーションにインストールする準備が整います。(複数のインストール・タイプをサポートする場合は、複数のサーバーイメージ(必要な構成ごとに1つ)を作成することもできます。)

内容

サーバーイメージの作成.....	5
サーバーイメージの作成完了前に.....	6

サーバーイメージの作成

サーバーイメージを作成するには、コマンドラインを実行してソフトウェアセットアップを初期化し、必要なインストール設定を指定します。

重要: Corel VideoStudio は 64 ビット アプリケーションです。

コマンドラインを実行するには

1. [ファイル名を指定して実行]ダイアログボックスを開きます(ショートカットキー:Windowsロゴ+R)。
2. [名前] ボックスにコマンドラインを入力し、[OK]をクリックします。

サーバーイメージを作成するには

1. 次のいずれかの操作を行います。
 - インストールディスクがある場合は、そのディスクをCD/DVDドライブに挿入します。
 - ISO ファイルをダウンロードした場合は、ISO をディレクトリにマウントするか、WinZip® (www.corel.com から入手可能)などのユーティリティを使用してISO イメージからサーバー上のディレクトリにファイルを抽出します。[自動実行]画面が開いたら、[終了]をクリックします。
2. 次のコマンドラインを実行します。X:は、ディスク、ISO、または抽出されたファイルが配置されているディレクトリです。
X:\Setup.exe /a
3. ユーザー名とシリアル番号(ハイフン付きまたはハイフンなし)をボックスに入力し、[次へ]をクリックします。
指定した顧客情報は、ソフトウェアがネットワークに展開されるときにワークステーションに渡されます。既定では、ユーザーはユーザー名を変更できますが、シリアル番号は変更できません。
4. サーバーイメージのネットワーク上の場所を指定します。既定の場所を変更するには、[ネットワークの場所] ボックスに有効なサーバーのパスを入力するか、[参照] をクリックして 有効なネットワークの場所を参照します。
5. 「インストール」をクリックして、サーバーへのファイルのコピーを開始します。
「キャンセル」をクリックすると、サーバーイメージの作成をキャンセルするかどうかを確認するプロンプトが表示されます。キャンセルするとセットアップが「ロールバック」され、

行われた変更のほとんどを元に戻します。ただし、手動でのクリーンアップが必要な場合があります。

6. 「終了」をクリックします。

7. CorelのWebサイト(www.corel.com)にアクセスして、ソフトウェアを登録します。

可能な操作

サーバーイメージをサイレント(または制限されたUIで)作成する

次のコマンドラインを使用します(X:は、ディスク、ISO、または抽出されたファイルが配置されているディレクトリです。image_locationはサーバーイメージの望ましい場所であり、serial_numberは製品に割り当てられているシリアル番号です)。

```
X:\Setup.exe TARGETDIR="image_location"  
SERIALNUMBER="serial_number" /q /a
```

/qスイッチは、インストール中に表示されるユーザーインターフェイスの量を制限するために使用されます。スイッチパラメータのリストについては、9ページを参照してください。

次のコマンドラインを使用します(ここでlog_fileはログファイルの場所とファイル名です)。

```
X:\Setup.exe /!*v "log_file" /a
```

エラーログを作成する

/lスイッチで使用できるパラメーターの一覧については、10ページを参照してください。



/qスイッチを使用してサーバーイメージを作成する場合は、細心の注意を払って進めてください。



サーバーイメージの場所を変更するには、新しい場所に新しいイメージを作成する必要があります。ある場所から別の場所に画像をコピーすることはできません。

サーバーイメージ作成完了前に

サーバーイメージから展開する前に、次の手順を実行することをおすすめします。

イメージのテスト

組織全体に展開する前に、数台のワークステーションでイメージをテストします。

ステージ3:ソフトウェアのインストール



コマンドラインスイッチとパブリックプロパティをお探しですか。8ページの「ソフトウェアのプッシュ」を参照してください。



ソフトウェアをプル配信するには、ワークステーションユーザー自身がソフトウェアのインストールを実行し、場合によっては独自のインストール・オプションを選択する必要があります。



グループポリシーオブジェクト("システムポリシー"と呼ばれることもあります)は、Windowsベースのネットワーク上の中央の場所に配置され、各ワークステーションの構成方法を定義します。

ワークステーションにソフトウェアをインストールするには、主に次の2つの方法があります。

- ユーザー自身がサーバーイメージからワークステーションにソフトウェアをインストール(プル型配信)する
- コマンドラインを使用して、ユーザーに代わってサーバーイメージからワークステーションにソフトウェアをインストール(プッシュ型配信)する

内容

ソフトウェアのプル型配信.....	7
ソフトウェアのプッシュ型配信.....	8

ソフトウェアのプル型配信

ワークステーションユーザー自身は、以下のいずれかの方法を使用してソフトウェアをインストール(プル配信)できます。

- サーバーイメージの場所を参照し、Setup.exeをダブルクリックして、セットアップの指示に従います。これは、ソフトウェアをプル配信する最も一般的な方法です。
- セットアップからソフトウェアをサーバーイメージにインストールするコマンドラインを実行する。通常、この方法はプッシュ配信インストール向けに予約されています(8ページを参照)。

グループポリシー オブジェクトを使用したアクセス許可の管理

ソフトウェアをインストールするには、ワークステーションユーザーに管理者レベルの権限が必要です。このような特権を割り当てるために、Windowsベースのネットワークでは、グループポリシーオブジェクト(または"GPO")(中央ネットワークの場所に格納され、ユーザーがネットワークにログインしたときに各ワークステーションのレジストリ設定を自動的に更新するために使用されるアイテム)を使用します。

ユーザーに管理者レベルのアクセス権を(一時的または永続的に)付与する場合は、グループポリシーエディターを使用してネットワークのGPOを構成する必要があります。

GPOの一般的なヘルプについては、グループポリシーのソフトウェア開発キット(SDK)を参照してください。

Windowsのグループポリシーエディターにアクセスするには

1. [ファイル名を指定して実行]ダイアログボックスを開きます(ショートカットキー:Windowsロゴ+R)。
2. [名前] ボックスに「gpedit.msc」と入力し、[OK]をクリックします。

ワークステーションユーザーがソフトウェアをインストールできるようにするには

ワークステーションユーザーに対して以下のシステムポリシーを有効にします。

- [コンピューターの構成]\[管理用テンプレート]\[Windows コンポーネント]\[Windows インストーラー]\常に管理者特権でインストールする
- [コンピューターの構成]\[管理用テンプレート]\[Windows コンポーネント]\[Windows インストーラー]\ユーザーによるインストール制御を有効にする
- [ユーザーの構成]\[管理用テンプレート]\[Windows コンポーネント]\[Windows インストーラー]\常にシステム特権でインストールする

アクセス制限されたユーザーがソフトウェアにパッチを適用できるようにするには

ワークステーションユーザーに対して以下のシステムポリシーを使用可能にします。

- [コンピューターの構成]\[管理用テンプレート]\[Windows コンポーネント]\[Windows インストーラー]\システム特権でインストールされている製品にユーザーが修正プログラムを適用できるようにする

ソフトウェアのプッシュ型配信

ワークステーションユーザーに代わってソフトウェアをインストールする場合は、サーバーイメージからワークステーションにソフトウェアを「プッシュ配信」できます。これを行うには、コマンドラインを次のいずれかと組み合わせて使用します。


- **バッチファイル** — コマンドを自動的に実行するようにスクリプト化できるテキストファイル。ヘルプについては、Microsoft の Web サイトを参照してください。
- **グループポリシーオブジェクト** — 中央ネットワークの場所に格納され、ワークステーションの構成方法を定義する項目。ヘルプについては、グループポリシーのソフトウェア開発キット (SDK) を参照してください。
- **プッシュテクノロジー** — ソフトウェアを自動的にインストールするために特別に設計されたサードパーティツール。ヘルプについては、製造元の Web サイトにアクセスしてください。


前述したように、これら 3つの方法はすべて、通常、次を含むソフトウェア インストール コマンドラインを使用することになります。

- サーバーイメージ上のセットアップファイル
- セットアップの動作を制御するスイッチ
- インストールされたソフトウェアを事前設定するパブリックプロパティ

コマンドラインについて

セットアップファイルの指定.....	9
スイッチの使用.....	9
パブリックプロパティの使用.....	11

 ソフトウェアをプッシュ配信すると、ワークステーションへのインストールがユーザー操作なしに強制されます。通常、セットアップのユーザーインターフェイスは抑制されます。

 通常、コマンドラインスイッチはソフトウェアセットアップの動作を制御し、パブリックプロパティは通常、インストールされたソフトウェアを事前に構成します。

セットアップファイルの指定

コマンドラインで指定する主な項目は、ソフトウェアのインストールに使用する実行可能ファイルです。

このファイルは **Setup.exe**、ソフトウェアセットアップの実行可能ファイルです。Setup.exe は、サーバーイメージの作成時に選択したインストールパスのサーバーイメージにあります。

Setup.exe コマンドラインの基本的な構文は次のとおりです。

```
\\サーバー名\パス\Setup.exe
```

サーバーイメージのパスにスペースが含まれている場合は、Setup.exe コンポーネント全体を引用符で囲む必要があります。

```
"\\サーバー名\空白を含むパス\Setup.exe"
```

スイッチの使用

ソフトウェアセットアップの動作をカスタマイズするには、さまざまなコマンドラインスイッチを使用できます。

基本構文

スイッチの構文は、スラッシュ (/) の直後に文字または文字列 (/q や /quiet など) が続きます。

スイッチと他のコマンドライン要素 (他のスイッチを含む) は、必ずスペースで区切ってください。

パラメーター

一部のスイッチにはパラメーターがあり、スイッチの設定を調整できます。実際、一部のスイッチでは複数のパラメーターを使用できます。

パラメーターを使用するには、特に断りのない限り、スイッチの直後に (つまり、スペースを入れずに) パラメーターを入力するだけです。パラメーターを指定しない場合、スイッチはデフォルト設定を使用します。

使用可能なスイッチ(機能別)

/q によるセットアップ UI の表示設定.....	9
/l を使用したログファイルの作成.....	10
再起動の制御.....	11

/q によるセットアップ UI の表示設定

/q スwitchを使用すると、インストールの際に表示されるユーザー インターフェイス (UI) を制御できます。このスイッチを使用すると、ユーザーが自分の登録情報を入力できないようにしたり、特定のインストールオプションを適用したり、"サイレント インストール" (セットアップ中にユーザー インターフェイスが表示されない) を実行したりできます。



スイッチは、他のスイッチを含む他のコマンドライン要素とスペースで区切ります。



特に断りのない限り、スイッチとそのパラメーターの間、または1つのスイッチのパラメーターの間にスペースを入力しないでください。



Microsoft Windows インストーラ—テクノロジーのすべてのスイッチの一覧については、Microsoft の Web サイトを参照してください。



/q スwitchを使用してインストールした後、ユーザーがワークステーションでプログラムを初めて実行したときに、ライセンス契約が表示されます。



/q の既定のパラメーターは n です。



/qn の代わりに /quiet スイッチを使用できます。



/qb の代わりに /passive スイッチを使用できます。



/l スイッチの既定のパラメーターは iwearmo です。

パラメーター

/q スイッチには、次のいずれかのパラメーターを指定できます。

パラメーター	効果
n	インストール中にユーザーにはユーザーインターフェイスは表示されません。エラーはログファイルに記録されます(ページ10)。これはデフォルトのパラメーターです。
b	ユーザーには、進行状況バーと【キャンセル】 ボタンのみが表示されます。ユーザーが【キャンセル】 ボタンを押すと、インストール前に戻ります。
r	ユーザーには、進行状況バーと、インストールに関する情報を含むページが表示されます。ユーザーは、インストールを取り消すことができます。
f	ユーザーには、完全なユーザー インターフェイスが表示されます。

構文

コマンドライン構文は次のとおりです。

```
\\サーバー名\パス\Setup.exe /q
```

/l を使用したログ ファイルの作成

インストールに関する一般的な情報を、指定したパスとファイル名のログ ファイルに記録する場合は、/l スイッチを使用します。

パラメーター

/l スイッチには、次のパラメーターを指定できます。

パラメーター	効果
i	ステータスメッセージをログに記録します
w	致命的でない警告をログに記録します
e	すべてのエラーメッセージをログに記録します
a	開始されたアクションをログに記録します
r	アクション固有のレコードをログに記録します
u	ユーザー要求をログに記録します
c	初期ユーザー・インターフェースパラメーターをログに記録します。
m	メモリ不足の警告または致命的な終了に関するエラーメッセージをログに記録します



/logスイッチは、/l*の代わりに使用できます。

パラメーター	効果
o	サーバーへのインストール中にハードディスク容量が不足したことによるエラーメッセージをログに記録します。
p	ターミナルのプロパティをログに記録します
v	非常に詳細な情報をログに記録します
*	vを除くすべてのパラメーターを適用します。すべての情報を1つのログファイルに記録します。

ログファイルの場所とファイル名

/lスイッチは、ログファイルの場所とファイル名という追加のパラメーターを受け取ることができます。「/l」と入力し、その後にスペースを入力し、その後に開始引用符、ログファイルへのパス、ログファイルのファイル名、および閉じ引用符を入力します。コマンドライン構文は次のとおりです(log_fileはログファイルの場所とファイル名です)。

```
\\サーバー名\パス名\Setup.exe /l*v "log_file"
```

構文

次のサンプルコマンドラインでは、/lスイッチは、インストール時にファイルC:\install.txtに情報を記録するようにします。

```
\\サーバー名\パス名\Setup.exe /l*v "C:\install.txt"
```

/q スイッチと/lの併用

/q スイッチと/lスイッチを一緒に使用できます。次のサンプル コマンドラインでは、/qを使用して、インストール中にユーザー インターフェイスを抑制し、指定したログファイルにエラーを記録します。

```
\\サーバー名\パス名\Setup.exe /q /l*v "C:\Logs\My_Log.txt"
```

再起動の制御

インストール後に強制的に再起動するには、/forcerestartを使用します
コマンドラインで切り替えます。コマンドライン構文は次のとおりです。

```
\\サーバー名\パス名\Setup.exe /forcerestart
```

また、インストール後の再起動を抑制するには、/norestart スイッチを使用します。コマンドライン構文は次のとおりです。

```
\\サーバー名\パス名\Setup.exe /norestart
```

パブリックプロパティの使用

インストールされているソフトウェアをカスタマイズするには、コマンドラインでさまざまなパブリックプロパティを使用できます。



パブリック プロパティの使用に関する追加情報は、MSDN 開発者プログラムからオンラインで入手できます。



パブリック プロパティを他のコマンドライン要素 (他のパブリック プロパティを含む) から区切るには、必ずスペースを使用してください。



Microsoft Windows インストーラーテクノロジーのすべてのパブリック プロパティの一覧については、Microsoft の Web サイトを参照してください。



最良の結果を得るには、場所を引用符で囲みます。



COUNTRY_CODEのみ、または TV_FORMATのみを指定した場合、ソフトウェアは、インストールされているユーザーインターフェイス言語に最も密接に関連するテレビ形式をデフォルトにします。



国際電話番号の一覧は、インターネットでご覧いただけます。

基本構文

パブリック プロパティでは大文字と小文字が区別されます。大文字で入力する必要があり、スペースを含めることはできません。

コマンドラインでパブリック プロパティを使用するには、パブリック プロパティの名前を大文字で入力し、その後で等号 (=) を直接入力し、その後で目的の値を直接入力する必要があります。

PROPERTY=値

値にも大文字と小文字が区別されますが、大文字と小文字の両方を含めることができます。値には、テキスト文字列 (機能名など) または数値を指定できます。値にスペースが含まれている場合は、引用符で囲んで、ひとつとして "読み取られる" ようにする必要があります。

PROPERTY="スペースを含む値"

使用可能なパブリック プロパティ (機能別)

指定した場所へのソフトウェアのインストール.....	12
ソフトウェアのテレビフォーマットの指定.....	12
ソフトウェアのネットワーク関連機能の制御.....	13
ソフトウェアのライセンス契約プロンプトの制御.....	14
デスクトップショートカットのインストールの制御.....	14
作業フォルダの場所の制御.....	14

指定した場所へのソフトウェアのインストール

INSTALLDIR パブリックプロパティを使用して、ワークステーション上の特定の場所にソフトウェアをインストールできます。このプロパティの値はパブリックプロパティローケーションです。コマンドライン構文は次のとおりです。

\\サーバー名\パス\Setup.exe INSTALLDIR="場所"

ソフトウェアのテレビフォーマットの指定

デフォルトでは、Corel VideoStudioは、インストールされているソフトウェアのユーザーインターフェイス言語を使用して、サポートするテレビ形式を決定します。

テレビ形式を指定する場合は、COUNTRY_CODE と TV_FORMAT の 2 つのパブリック プロパティを一緒に使用する必要があります。

国コードの指定

COUNTRY_CODE プロパティは、国際直通電話コードによって地理的地域を識別するために使用されます。このプロパティに指定できる値には、次のものがあります。

- フランス: 33
- ドイツ: 49
- イタリア: 39
- 日本: 81

- オランダ: 31
- 北米: 1
- 台湾: 886
- イギリス: 44

テレビフォーマットの指定

TV_FORMAT プロパティは、使用するテレビ形式を指定するために使用されます。このプロパティに指定できる値は次のとおりです。

- 1 — 北米の標準である NTSC 形式を指定します。これがデフォルトの設定です。
- 2 — ヨーロッパ、アジア、および世界の他の多くの地域で標準となっている PAL 形式を指定します。これはデフォルト設定ではないため、地域で PAL 形式を使用している場合は指定する必要があります。

例

前述したように、COUNTRY_CODE と TV_FORMAT を一緒に使用する必要があります。プロパティを 1 つだけ指定すると、Corel VideoStudio にインストールされているユーザー インターフェイス言語に最も密接に関連するテレビ形式が既定で設定されます。

コマンドライン構文は次のとおりです。

```
\\サーバー名\パス名\Setup.exe COUNTRY_CODE=国コードの指定値 TV_FORMAT=テレビフォーマットの指定値
```

たとえば、次のコマンドラインでは、地域として北米を指定し、テレビ形式として NTSC を指定します。

```
\\サーバー名\パス名\Setup.exe COUNTRY_CODE=1 TV_FORMAT=1
```

次の例では、地域として英国を指定し、テレビ形式として PAL を指定しています。

```
\\サーバー名\パス名\Setup.exe COUNTRY_CODE=44 TV_FORMAT=2
```

ソフトウェアのネットワーク関連機能の制御

IOFF 共通プロパティに値 1 を指定することにより、インストールされたソフトウェアのすべてのネットワーク関連機能を使用不可にすることができます。コマンドライン構文は次のとおりです。

```
\\サーバー名\パス名\Setup.exe IOFF=1
```



IOFF=1 でネットワーク関連機能を無効にすると、自動更新とともに製品内メッセージングも無効になります。

ソフトウェアのライセンス契約プロンプトの制御

ソフトウェアがサイレントインストールされている場合、ワークステーションユーザーは、最初の起動時に使用許諾契約書(EULA)に同意するように求められます。ワークステーションでEULAプロンプトを抑止するには、FORCENOSHOWLIC 共通プロパティに値 1 を指定します。コマンドライン構文は次のとおりです。

```
\\サーバー名\パス名\Setup.exe FORCENOSHOWLIC=1
```

重要: ワークステーションで EULA プロンプトを表示しないように選択した場合は、サーバーイメージの作成時に、ネットワーク上のすべてのユーザーに代わって EULA の条項に同意することになります。

デスクトップショートカットのインストールの制御

デフォルトでは、すべてのワークステーションがソフトウェアのデスクトップショートカットを作成します。これらのショートカットのインストールを無効にするには、デスクトップパブリックプロパティに値 NONE を指定します。コマンドライン構文は次のとおりです。

```
\\サーバー名\パス名\Setup.exe DESKTOP=NONE
```

作業フォルダの場所の制御

作業フォルダの場所を制御するには、次のコマンドを使用し、選択した場所を指定します。

- 作業フォルダ: WDIR
- オーディオ作業フォルダ: AWDIR
- プロキシフォルダー: PDIR

コマンドライン構文は次のとおりです。

```
\\サーバー名\パス名\Setup.exe WDIR="場所"
```

ステージ 4: インストールの保守

インストールしたソフトウェアは、以下の方法で保守します。

- 削除 (または「アンインストール」) — 最新バージョンのソフトウェアにアップグレードする準備をします

Windows のコントロールパネルを使用してソフトウェアを 1 回だけインストールすることも、コマンドラインを使用してソフトウェアを複数インストールすることもできます。

内容

一台のPCからのアンインストール.....	15
複数のPCからのアンインストール.....	15
ソフトウェアの削除.....	15

一台のPCからのアンインストール

Windows のコントロールパネルを使用して、ソフトウェアのアンインストールできます。

ソフトウェアをひとつのPCからアンインストールするには

1. ワークステーションにログオンします。
2. コントロールパネルを開きます。
3. 次のいずれかの操作を行います。
 - Windows 11、Windows 10 の場合 — [プログラム] | プログラムをアンインストールします (または、コントロールパネルのクラシック ビューを使用している場合は [プログラムと機能] をクリックします)。
4. リストから [Corel VideoStudio] を選択します。
5. [アンインストール] オプションを有効にし、[はい] をクリックします。

複数のPCからのアンインストール

コマンドラインを使用してソフトウェアを削除できます。

プッシュ配信を使用してコマンドラインを展開することにより (8 ページを参照)、ソフトウェアを複数のPCからアンインストールできます。

コマンドライン関数

ソフトウェアの削除.....	15
----------------	----

ソフトウェアの削除

コマンドラインスイッチ /x を使用して、ソフトウェアを削除できます。



/uninstall スイッチは、/x の代わりに使用できます。



/qのパラメーターについては、9ページの「/qによるセットアップUIの制限」を参照してください。

コマンドライン構文は次のとおりです。

```
\\サーバー名\パス名\Setup.exe /x
```

サイレント削除

コマンドラインに /q スイッチを含めると、ソフトウェアをサイレントに削除できます。

```
\\サーバー名\パス名\Setup.exe /x /q
```


Corel® VideoStudio® 導入ガイド

本製品は、Corel エンド ユーザー ライセンス契約 (<http://www.corel.com/jp/eula> 以下「EULA」といいます)、または、ビジネスユーザー使用許諾契約 (<https://www.corel.com/jp/bula/> 以下「BULA」といいます))の条項に基づいて提供され、その条項は、お客様が本製品で何ができるかを定義し、保証およびお客様の救済措置に関する制限を規定しています。この製品を使用するには、EULA / BULA に同意する必要があります。

© 2023 Corel Corporation Corel、Corel ロゴ、VideoStudio は、カナダ、米国、およびその他の国における Corel Corporation の商標または登録商標です。

この製品およびドキュメントには、Corel と提携していない第三者が所有、登録、および/またはライセンス供与し、許可を得て使用する知的財産 (商標を含む) が含まれています。本条項の記載は、当該第三者を推奨する、または当該第三者による保証、または第三者の製品またはサービスの品質、商品性、または適合性に関する Corel による保証を構成または暗示するものではありません。本製品ならびに本書で言及されている特定の製品および資料は、Corel Corporation および/またはその関連会社が米国およびその他の国で所有する発行済み特許によって保護されているか、またはそのすべての要素を含んでいるか、または実施されています。

これらの発行済み特許の非網羅的なリストは、www.corel.com/patents で入手できます。